

進路指導に役立てて

秋田職能短大 高校の担当者に説明会



大館市の秋田職業能力開発短期大学校（後藤康孝校長）

で20日、高校の進路担当者を対象にした学校説明会が開かれた。能代市や湯沢市など県内13校から教員15人が参加し、講話や施設見学を通して学校への理解を深めた。

進路指導に役立ててもらおうと毎年開催。前半は福原淳嗣市長と小坂製錬の吉田浩生産技術部長が講話を行った。

福原市長は「令和時代のまちづくり」パンデミック（世界的大流行）の先にあるも

県内高校の教員が参加した説明会（秋田職能短大）

の」と題し、近年の市政の取り組みを紹介。ワクチン集団接種やインランドデポ（内陸型保税蔵置場）を取り上げ、「大館は『未来創造都市』への道を確実に歩んでいる。その大きな一端を担っているのがこの大学校」と話した。

吉田部長は同校出身の従業員について「勉強することに抵抗がなく、進んで新たな知識、技術を身に付けようとし

ている」と評価し、「これはモノづくりにおいて最も重要な資質。地元で還元しようという気込みも優秀な人材が多く育っている」と述べた。

後半は各学科の施設見学や学校の事業概要、進路指導についての意見交換を行った。